

## シーズ発掘 ・ ニーズ把握

## 大学等のシーズ発掘

# 高等専門学校でのシーズ発掘活動

キーワード：高専組織・教員面談・科学研究費応募・シーズ発掘試験

本事例の関係者  
阿南高専  
高松高専  
詫間電波高専  
新居浜高専  
弓削商船高専  
高知高専  
各高専地域連携  
テクノセンター  
文部科学省産学官連携  
コーディネーター

## 校長への支援依頼から教員への足がかり

### 【要約】

四国6高専連携担当コーディネーターは、地域イノベーション創出を行うために、四国6高専のシーズを把握し、事業化へ発展できるシーズをピックアップして、関係企業とマッチングすること、および地域活性化に繋がるシーズの提供による四国6高専の社会貢献活動を支援している。

そのために、四国6高専の教員面談を行い、シーズのステージを目利きして、競争的資金応募、ニーズとのマッチングの場づくりなどを行った。

### 【きっかけ】

平成19年度のシーズ発掘試験応募が非常に少なかった。教員も研究に対する意識、社会貢献などへの関心が薄かった。コーディネーターは、各高専での産学官連携に対する啓発講演を行い、教員と面談することにより、産学官連携活動の遂行が社会と高専にもたらすメリットを理解してもらい、シーズの掘り起こしを行った。

### 【段取り・プロセス】

1. 校長への支援要請：高専の大多数の教員は、①多忙で研究する時間が少ない、②研究や産学官連携への取組は考課に繋がらない、③特許出願しても社会貢献できない、と面談に応じなかった。そこで校長に面談者指定を依頼した。
2. 教員との面談：①申請への段取りの重要性、②考課に繋がる、③当該研究の特許成立に基づく社会貢献、などを説明すると同時に、教員が困っている事をヒアリングした。そのようにして教員との関係を構築している。
3. 事務方との協働：科研費の申請は各高専企画室が行う。シーズ発掘試験等も応募には企画室に支援依頼し、コーディネーターが応募する。各高専企画室とは情報を共有しておく。
4. 各高専の校長、産学官連携テクノセンター長への依頼：シーズに対する学校としてのマネージメントが両者で行われることを依頼した。その方針にもとづいてコーディネーターが活動・支援を行っている。

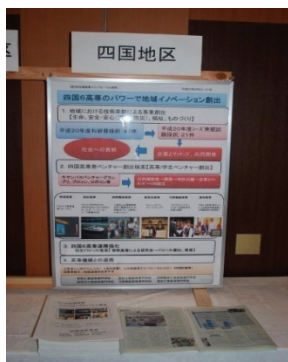
### 【成果・結果や活動後の変化】

1. シーズ発掘試験への応募相談を機会に、各教員の研究の内容に沿って、基礎研究（科研費応募）、実用研究（シーズ発掘試験応募）、企業との共同開発（顕在化ステージ、育成研究）、などを設定し、申請準備を教員とコーディネーターが共同で行う。
2. シーズ発掘試験への応募で作成する申請書が3枚であることは、教員の研究を端的に把握することに役立っている。これらをもとに他の競争的資金応募（他の省庁、地方自治体、企業、等）への申請を検討する。

平成20年度四国6高専シーズ発掘試験応募数：82件（平成19年度41件）  
採択数：21件（平成19年度4件）

平成20年度科学研究費応募数：178件  
採択数（含継続）：47件

採択数も増加し、JST重点地域研究開発推進プログラムに四国6高専が選定され、5高専で先端的機器の購入を行うことができ、研究環境の充実が図れた。



全国高専  
テクノフォーラム

## 出会いの場づくり

各高専30名以上の  
教員との面談で  
シーズ目利き

イノベーション  
ジャパン2008で  
展示、発表会及び  
新技術説明会で  
ニーズと出会う

## 成功の事例

### 個別訪問と教員との面談でテーマの性格づけ

#### ●シーズの掘り起こし、目利き

2年間続けている教員との面談で、四国6高専のシーズが見えてきた。産学官連携の重要性、教員の社会貢献に対する啓発講演も各高専で2回目を開催している。1年目のスローガン“Early small success”に恵まれ、教員の方から相談が持ち込まれる。2年目からは一般教養科の教員も面談に来るようになった。事務方との協働により、科研費、シーズ発掘試験、企業との共同申請などを行っている。

#### ●ニーズとの出会いの場づくり

企業との共同開発を狙ったシーズ紹介の場づくり：四国6高専産学官交流会、各種シンポジウム、フォーラムなどへの展示・説明会、およびイノベーションジャパン2008への展示・発表会、ならびにJST新技術説明会などの出会いの場づくりを行った。これにより、企業との共同開発に進んでいるシーズもある。

#### ●技術振興協会を通じての地域貢献

4校の高専には企業の支援団体である技術振興協会があり、その催しで、産学官連携活動の紹介講演を行い、同時に、教員のシーズ展示・発表を行い、地域企業に高専のシーズを周知した。また、教員への研究支援も頂いている。技術振興協会の組織化に至っていない高専も、設立に向けて準備が進んでいる。

シーズ発掘  
・  
ニーズ把握

スローガン

United in

Diversity

## 失敗の事例

### 四国6高専での特定プロジェクト構築

#### ●研究における複数高専の共同研究のすすめ

各高専の教員は、独自で研究を進めている。研究協力者は専攻科の学生程度である。自校の教員同士での共同研究が少ない。高専間の共同研究は皆無である。むしろ大学との共同研究の方が多い。複数高専における特定プロジェクトの設定・推進をコーディネーターのミッションにしていたが、設定できなかった。コーディネーターの働きかけ不足であった。

#### ●四国地区大学、公設試との共同研究のすすめ

原子力若手人材養成（競争的資金採択された）、農工連携（廃棄物処理技術、バイオマス、など）、安心・安全（医療、環境など）の複数校特定プロジェクト化を目指した研究会設置を検討している。

また、各種産学官連携の展示会に、6高専共通のテーマを設定して重点展示を行う。なお、6高専との共同研究も重要であるが、大学、公設試との共同開発化も重要であり、新たに進めている。

成功と失敗の  
分かれ道

コーディネーターが誰からも協力を求められる、信頼のある存在であるかどうかは鍵になる。

## 産学官連携の新たな展開に向けた提言

### 他機関コーディネーター等との協働

#### ●四国地区産業支援コーディネーターとの協働

シーズとニーズのマッチングの場づくりに、地域の産業支援機関のコーディネーター、四国経済産業局補助事業「四国地域イノベーション創出協議会」のタスクフォースのイノベーションコーディネーターと連携を密にして、四国6高専のシーズとニーズのマッチングを推進し、四国地区の地域活性化を図る。

#### ●他制度産学官連携人材との連携

四国6高専の知的財産部門の関係が脆弱である。四国TLO、発明協会、特許流通アドバイザー、高専機構の戦略展開プログラムのアドバイザーの支援を受けて、知的財産関係の強化を図る。

#### ●各高専の非常勤産学官連携コーディネーター、知的財産アドバイザーとの協働

四国6高専に常駐しているのは阿南高専のみである。教員のシーズを幅広くニーズとマッチングさせ、教員シーズの特許出願にきめ細かな支援に協働してあたる。

#### ☆コーディネーターの一言

- ・ 今日を大切に
- ・ 毎日、力を尽くして、働くだけ
- ・ 常に汗をかくこと
- ・ 動機善なりや、私心なかりしか